

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は、認知症介護実践リーダー研修の受講をもとに、各ユニットで、皆で考えて、理念を実践するための具体的な目標を作成した。各目標については朝夕の送り時に評価しており、毎月ひとつを目標としている。その他、理念に関する研修も年に数回実施している。	職員に理念に対してできていること、できていないことについてアンケートをとり、その結果を踏まえユニット毎に目標を設定し、具体的な行動を示しています。また、目標の振り返りも各職員に発表してもらうようにし、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に積極的に参加できるように勤務調整をしている。苑で行う行事などへの近隣への呼びかけは減っているが、運営推進会議では町内の方から活動への助言を求めている。近隣への駐車場の提供や救急救命講習会への参加呼びかけを試みた	地域の祭りやどんと焼きなどにご利用者と一緒に参加しています。また、近隣の小学校で認知症サポーター講座を開催したり、中学生の体験学習を受け入れたり、町内の文化祭にご利用者の作品も出典するなど、積極的に地域とのふれあいがかけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の暮らしぶりなどは地域の方々に十分に周知されるとは言えないため、学生の受入れを行ったり、イベントに近隣住民を招いたりしている。また、毎年飯小学校での認知症サポーター養成講座を実施している。地域に役立つことがないか模索して、地元との繋がりが広がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の運営状況や苦情への対応報告、百花苑で困っている事などへの助言を頂いている。今期は地域の方にも救急救命講習会への参加を募り、開催にあたって様々な協力を得ることができた。会議でのスライド上映や回覧板の活用などは現在行っていない。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、老人会会長、市の担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。また、全てのご家族に運営推進会議の議事録を送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には、代表者が定期的に運営推進会議の議事録を届け、利用状況や活動報告を行っている。今年度は運営推進会議に数回担当者に出席していただいた。また、運営上の事などで、随時、連絡・報告・相談などをして連携している。毎年福祉バスの手配をしたり、認知症サポーター研修の実施について相談するなどの関係もある。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。苦情についても報告しアドバイスを頂いているほか、地域のご利用者のケース検討について市の担当者、包括支援センター、町内会長、ご家族とも協議する機会を設けるなど、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の活動時間帯は窓や玄関の施錠をしていない。利用者の状態に合わせて転倒防止のために鈴やセンサーマットを使用することもあるが、家族からの同意を得た上で期間を設けてモニタリングを行っている。	玄関の施錠も夜間のみとするなど、事業所にて身体拘束をしないケアを徹底しているほか、接遇についての内部研修の実施し、言葉の遣い方についても学ぶ機会を設けています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する施設内研修を行い、虐待防止への意識を高めている。入居者の身体の傷は常に確認し、些細なあざでも気に止めて記録に残している。職員のストレス軽減についての取り組みは不十分である。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しているほか、ヒヤリハット、事故報告書をユニット会議で確認し、職員間で振り返りを行うなどして、虐待の防止に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者自身が成年後見人であるが、内部研修は実施されていない。現在一名のみ成年後見制度を利用しているが、全職員が権利擁護に関する制度の理解と活用が出来ているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は全文を読み上げ、説明を行っている。入居までに疑問点を解決できるように、書類一式を家族に一旦預けている。入居予定者には、可能な限り事前見学を勧めており、体験利用することも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見は、何気ない発言やトラブルを苦情として取上げたり、毎月末の自治会で直接的に聞いたりしており、班長会議で対応を検討する等している。家族からは、面会時や、カンファレンスの際に意見を聞くようにしている。あえて届出が無くても、貴重な意見ととらえ、苦情として扱うケースもある。苦情の内容は運営推進会議でも報告し、参加者からの意見を頂くようにしている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いかご家族に確認しています。また、毎月の自治会でご利用者から外出の希望や避難訓練の振り返りなども行って頂き、ニーズを確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「要望ノート」を設けている。書類作成の負担軽減策として、職員の増員と【D】勤務を用いたの改善や時間外申請の改善を図った。介護相談員に協力してもらい、職員に無記名のアンケートを実施し、就業環境の改善に努めている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、要望ノートに記載し、班長会議にて議題を決め、毎月のユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、介護相談員に協力してもらい職員に無記名のアンケートを実施し、その内容を踏まえて、就業環境の改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割をつけたり、勤務も都合が付く限り柔軟に対応したり、資格手当を設けたりしているが、スタッフの理解度は低く、やりがいに繋がっているとは言いがたい。今年度から、個人目標を作成することとなったが、適切な評価が重要と考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の際、ロールプレイ形式など、やり方を工夫して職員研修を行っている。新入職した職員へは、交換日記形式で教育を行っている。外部研修については、十分といえない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士で事例検討など意見交換する機会はあるが、職員間の交流は無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの段階から、本人の意向や現状に耳を傾け、気持ちを汲み取れるよう努めている。センター方式を活用し、出来るだけ早い時期に困っている事・思い・不安なことなどを把握し、1日でも早く安心して生活出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後は、こまめに連絡を行って入居者の様子を伝えたり様々な相談に乗りながら、不安に思っている事や困っている事を良く聴き受け止め、解消出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でまず必要なサービスを提供できるよう関係機関からも情報を集め、スタッフと意見交換しながら入居者及び家族の実情や要望・意見などに沿った対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りにとどまらず、年中行事や地域の今昔について、人生のよき先輩として教える戴くことが多い。暮らしに関するすべてを職員がするのではなく、百花苑での存在意義が認識できるように、ともに実施することを大切と考えている。		
19	(7-2)	○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の郵送書類で医療面や生活状況、認知面などを家族にもわかりやすい言葉に配慮しつつ手紙として同封している。各居室担当者や計画作成より随時連絡をとり、家人の意見や意向を確認している。モニタリングの状況や内服薬の内容なども情報提供をしている。	事業所広報を毎月送付しているほか、お手紙も個人ごとに医療面や日常生活の内容が分かるように毎月送付しています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前勤めていたお店への外食。自宅近辺へのドライブや散歩、朝市への外出などを家族の協力を得ながら支援している。事前に計画が出来る場合には外出が行いやすいように勤務を調節している。	ご家族にも協力して頂き行きつけの美容室へ出かけたたり、ご利用者が以前に勤務していたお店に外食に出かけたたり、定期的に自宅に外泊するご利用者もおおり、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活での過干渉や他者の視線が軽減できるよう個々の性格や習慣を考慮して食席の変更やホールでの家具を配置するよう工夫している。変更の際にはユニットの職員からアイデアを得る為にミニカンファレンスを活用し意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される場合は、センター方式のシート一式を受入れ先の施設に渡して、本人が大切にしていることや情報がスムーズに引き継がれるようにしている。退去後の転居先へ不定期に面会に行っている。転居後も家人が来苑され相談に応じたことがある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを活用して、言葉に表せない思いや意向をくみ取る観察週間を設けている。普段の何気ない会話や面会後の様子などから得た情報を職員間で共有し検討している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。また、月に1度ご利用者が集まる会議も行き、素直な要望を確認しています。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は担当の介護支援専門員から情報を得ている。入居後は、本人に直接聞いたり、時には家族にセンター方式のシートを記入してもらうなどしている。BPSDの原因の手掛かりや、より充実した生活に役立てる視点で情報収集をしている。最近では不定期に来苑する親族からの情報もあり、面会後に見送るわずかな時間を利用して情報を収集している。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご家族にもセンター方式のシートの作成協力も頂くなど、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、6ヶ月に1度は居室担当職員がアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録だけでなく、センター方式の二十四時間アセスメントシートを活用し、表情や反応を含めた詳細な記録と、日々の健康観察記録を行っている。これらの記録から、意外な発見があったりする。毎月のユニット会議の際には職員間での情報交換を行い、心身の状態の把握に努めている。半年毎にセンター方式のシートを活用しアセスメント、認知症の検査を実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は半年毎に、モニタリングは毎月行っている。日々のサービス実施状況が不十分な場合や、入居者の状況の変化が見られた時はミニカンファレンスを行い、随時介護計画を見直している。介護支援専門員の独りよがりな介護計画にならないように、アセスメントは全職員が関わっており、介護計画の原案を一旦回覧し、職員のアイデアを取り入れている。介護計画のための話し合いは、家族や入居者が緊張しないように、オープンスペースで話しやすい雰囲気を作っている。	モニタリングは毎月実施しているほか、介護計画も職員全員に回覧し意見を取り入れる取り組みも行っています。サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、6ヵ月毎の計画の見直しを行っているほか、ご利用者の状態に合わせた随時の見直しも行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングで実施状況や結果を全職員が評価できるように用紙を工夫している。センター方式のシートに直接気づきやアイデアを記録し、根拠なども記しているために情報を共有しやすくなっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市への個別外出や受診、町内行事への参加がしやすいように勤務表へ反映させている。定期的な外泊や実費でのDS利用、家人の宿泊などを受け入れたこともある。職員では子供連れでの出社や勤務変更など柔軟に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供110番の家に指定されており、地域の子供たちの安全確保に貢献していると共に、地域からの見守りの役割も果たされている。運営推進会議では、安心して生活するための意見交換がなされている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診の際は、事前に医師に情報提供している。また、内科以外の医療機関への受診の際は、医師に情報提供し、家族のみで受診した時でも、正確に情報が伝わるようにしている。受診は、家族が行うことを基本としているが、職員が家族と同行したり、職員が代行することもある。協力医院との関係は良好で、二十四時間連絡が取れる態勢である。また、納得が得られた主治医となるように、主治医を変更したケースもある。遠方の為付き添いが出来ない家族には、事前に報告内容と意向を確認し、担当医へ伝えている。	かかりつけ医は希望するかかりつけ医となっており、受診時はご家族にも付き添いをお願いしますが、必要に応じ職員が支援し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供書を医師に渡すなどの情報提供も行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調に関して気になる事は、一般職員でも、協力医院の医師にいつでも連絡できるような関係が出来ており、同医院の看護師ともざくばらんな関係である。必要な時は、医院から点滴の施行に来てくださる。			
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめに面会を行い、必要時はムンテラに出席させていただくこともある。医療相談員や担当医師、担当看護師に、百花苑の退去要件を説明し、早期に退院できるよう情報交換を行っている。可能な限り入院の際の面会は行っているが、職員の自発性にバラつきがある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアは、基本的には実施しておらず、「重度化に関する指針」を独自に作成している。入居の際だけでなく、介護計画の話し合いの際、重度化した場合の意向の聞き取りを家族に行っている。寝たきりに近い状態となった場合、何度も家族と連絡を取り合い、スムーズに次施設に転居できるよう取り組んでいる。	契約段階で看取りケアは基本的には行わないというホームの方針をご家族に伝えていますが、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。		
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、百花苑主催で、町内の方にも参加を呼びかけ、町内会館にて消防署員から心肺蘇生や応急処置の訓練を行った。日常的に起こり得る意識障害や転倒骨折に対する初期対応については、職員会議にてロールプレイを交えた研修を行っているが、それらの研修の頻度が少ないため、いざと言う時の実践力は課題が残る。	事業所主催で地域の方にも案内し、町内会館で消防署員より救命講習を受けており、ホームでもユニット毎に夜間対応表を作成する等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	ご利用者個別の緊急対応マニュアルを作成し、適切な初期対応が出来るように徹底されることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災や地震を想定した(夜間想定も含む)訓練を入居者と共に行っているが、マンネリ化した部分があった。今年度防火管理者を新たに職員が取得し、手順の見直しを行った。防災教育については実施したことがなく、冬期の停電への備えが万全ではないなど、課題と感じている。	毎月、火災や地震を想定した避難訓練を行っており、ご利用者からも反省を頂いているほか、近隣の美容室にも警報が連動して鳴るようしてもらうなど地域との協力体制も築いています。	避難訓練には地域の方にも参加して頂けるように働きかけ、これまで以上に地域との連携を図られることを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に「お願いする」ことを意識するように敬語を使い、日常会話には親しみのある言葉かけを行っている。ロールプレイ方式で接遇や認知症の内部研修を年に何度か実施している。理念にも通ずるところがあるので、「尊厳とは何か」を書き出し、具体的な形にして「自分でされて嫌なこと」はしないように取り組んでいる。不適切な言動があれば会議で議題として取り上げている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に確認しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の理解力に応じて分かりやすい言葉で説明し、選択しやすい方法や、自己決定しやすい方法で支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にタイムスケジュールは無く、業務が優先されることのないように、入居者との場面でも共に過ごし、ゆったりと関わるように努めている。朝なかなか起きれない時は、食事時間をずらすなど、柔軟に対応している。入浴時間や入浴希望が反映できるように勤務時間での夜間入浴ができるようにしている。毎日入浴している方もいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服装にならないように、入床時に着いたものを回収し洗濯している。個別に着衣の選択をプランに反映させている方もいる。衣類の色合いなども考慮し、選択できない利用者には配慮しており食べこぼしや、起床時の整容に気を付け、拭き取りや髭剃りを介助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事作りを実施している。家庭菜園の野菜を共に収穫する等、季節感を大切に、食事が楽しみなものになるようにしている。また、外食や喫茶に行ったり、食に関する意欲を高める支援を行っている。嗜好を把握して代替品を用意して選択できるようにもしている。会話を楽しみながら和やかな雰囲気の中で、食事を食べている。入居者から食べたい物への聞き取りを行い、献立へ反映させるようノートを作成したが、現在は活用に至っていない。	ご利用者にも出来る範囲で調理や味付け、後片付けも行ってもらっています。また、事業所でも大根やなすなどの野菜をつかっており、収穫もご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒に里味やマクドナルドに外食に出かけたり、喫茶店に出かける等、ご利用者に食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ食べる量や盛り付けを工夫している。栄養を取りにくい状態のある方には、医師に相談し高カロリー飲料を処方して頂いている。嗜好を把握し、代替品の提供や、水分の提供などを介護計画に盛り込んでいるケースもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にうがいを行ってもらい、感染症予防と、少しでも食事が美味しく摂取できるようにしている。毎食後はほぼ全ての入居者が歯磨きを行っており、不十分な方には介助を行っている。また、偶数日に義歯洗浄剤を使用したり、週末に口腔ケア物品を消毒する等、口腔内が清潔に保てるようにしている。磨き残しのテスターを使用し、週一回のチェックを介護計画に盛り込んでいる方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時にセンター方式のシートを使用し、排泄パターンを把握している。介助が必要な方には排泄が終わるまで扉の近くに待機し、羞恥心に配慮している。トイレ内の環境を整備し、パットなどの備品は他者から見えないように収納に配慮している。	夜間は全てのご利用者の排泄チェックを行ない、ご利用者の状況に応じては日中も排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の食事提供方法や水分量の把握をしている。全体的に運動量が低下しているために、食材へは食物繊維の多い物を取り入れている。自然な排便につながるように入浴や温電法などを行うこともある。薬剤は主治医へ相談しながら用量を細かく調整し、職員間で観察を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日などは指定せずに毎日もしくは一日おきに入浴している。入浴が苦手な方には過去の習慣などを家族から聞き取り、無理強いくことなく入浴して頂けるように検討している。好みの入浴剤を個別に購入している方もいる。入浴しない期間が長くなる場合には肌着の交換や清拭などを行っている	夜間の入浴支援も行うなど、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。外出で日帰り温泉に出かけたり、入浴剤を使用して入浴を楽しまれる方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず居室外でも休息できるようにホールにもスペースを確保している。入眠しやすいように職員が添い寝することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや間違いの無いようにセットし記録している。薬が変更になった場合は特に注意し状態観察を行い、担当医に報告している。しかし、全職員が薬の効果や副作用について把握しているとは言えないので、適時会議等で説明を行っているが、十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の楽しみや張り合いがもてる生活が送れるように介護計画を作成している。残されている能力を把握し、生活歴を活かした包丁研ぎやごますりなどの作業提供もやっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝市へ出掛けられるように勤務調整をしている。介護度が高い入居者でも家族と馴染みのところへ外出が出来るよう送迎や介助を行っている。近隣への買い物やドライブなど季節を感じることでできるように外出の機会を多く設けるようにしている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーへ買物に出かけたり、高田の市へも一緒に行ったりもしています。また、季節に合わせたお花見や紅葉狩り、善光寺へお参りに行くなどのイベントとしての外出も実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症を理解する上で、お金を持つ事の大切さを理解しており、小額でも個人管理していただけるように、ご家族に説明している。また、買物の際だけでも代金を支払っていただくことを心がけ、お金を持つことの大切さを感じていただけるように取り組んでいる。現在は金銭の自己管理をしている方はいない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の際は、いつでも電話をかけられるように支援している。手紙を受取った場合は、返信できるようにお手伝いしたり、利用者にとって大切な記念日に郵送物が届いた場合は、お礼の電話ができるように働きかけている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは行事の写真を貼るなど、親しみやすい雰囲気作りをしているが、建物の構造上、外の景色がわからなかったり、昼夜の区別がつかなくなったりする。また、各居室に暖簾など、目印となるようなもので工夫しているが、扉の色が全て同じなど、更なる環境面での工夫が必要と感じている。	リビングにはご利用者が刺し子で理念を作成した作品を掲示してあったり、ぬり絵や貼り絵の作品も掲示してあります。近所から頂いたタンスやオルガンも共有スペースに置かれ、落ち着いた環境になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の生活スペースは、食事テーブル席、リビングのソファ、こあがり、談話コーナーと広く利用できる。たたみ物を行う時、食事作りを行う時、余暇活動を行う時など、各生活場面に応じて過ごす場所が選択でき、仲の良い方同士がそれぞれに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、余暇に作成した塗り絵などの作品を飾ったり、自宅から持ち込んだ小物が置かれていたり、それなりに落ち着いて過ごせる、思い思いの部屋作りを支援している。また、週一回リネン交換の際部屋の掃除を行い、清潔を保つよう努めている。部屋で快適に過ごせるように、温度調整についても配慮している。	居室には、ご利用者毎に合わせた暖簾が入口に飾られてあるほか、テレビやタンスなどを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室及びトイレ、浴室とそれぞれ別ののれんが掛けてあり、混乱や失敗を防ぐ工夫をしているが、改善の余地はまだある。更なる工夫を行う予定である。		